

こども=未来
~みんなこどもだった。

大口町 おとな ワークショップ

NEWS LETTER ①

11月19日の日曜午後、健康文化センター4階ほほえみホールで第1回「大口町おとなワークショップ」を開催しました。無作為抽出によるお誘いに応じてくださった大学生から60代まで、25名の参加がありました。

町役場から開催趣旨を聞いたあと、リラックスした雰囲気づくりのためのアイスブレイク（ときほぐし）。ペアでの自己紹介などを通して「傾聴」についても学びました。次に5グループに分かれ、子どもの頃、大人の接し方や周りの社会に対してうれしかったことや戸惑ったことなどについて話し合いました。

休憩をはさんで後半は、「子どもの権利」について説明を聞きました。続いて「おもちゃのとりあい」の場面を、子どもや大人の役を即興劇で演じる中で得た気づきについて班内で意見交換。最後には全員で一重円のくるま座になって、この日のワークショップを通して気づいたこと、感じたことを分かち合いました。

1 オープニング

はじめに、健康福祉部の小島部長より、あいさつがありました。

大口町は「こども条例」策定に取り組んでいます



大口町は昨年、町政60周年になり、これを機に町では「こども条例」の策定に取り組んでいます。

昨年度は子どもを対象にアンケートを行ない、今年度は直接意見を伺うため、8月に「こどもワークショップ」を開催しました。

今回の大人ワークショップは町内の19歳以上の方3,000人を無作為抽出し、招待状をお送りしました。定員30人がすぐにいっぱいになり、思った以上に皆様に関心を持っていただいていることをうれしく思うと同時に、大きな責任を感じているところです。

策定する条例には大口町らしさを盛り込めないかと思っています。今日はみなさまから、ヒントや助言がいただければと思います。よろしくお願いします！

2 アイスブレイク（ときほぐし）

2人1組になってジャンケンや自己紹介等を行うことで、話しやすい雰囲気づくり・関係づくりを行いました。コミュニケーションの基本である「聞き方」についても学びました。



進行役 TAKEZO

相手の目を見て、耳で入れて、心に刻む「傾聴」が大事。相手が「しっかり聴いてくれている」と感じて初めて「傾聴」できています！

3 創造的対話「みんなこどもだった。」

合言葉でランダムな5グループに分かれ、子どもの頃、大人の接し方や社会について、「うれしかったこと、希望が持てたこと」や「いやだなと思ったこと、戸惑ったこと」について、各自で「むかシート」に記入したあと、グループ内でシェアしました。



近所の人たちが声をかけてくれた。みんなで育ててくれた！

中学校で坊主にしなければいけないのがすごく嫌だった

先生がわたしの得意なことをすごくほめてくれた！

親がけんかしているのが嫌だった

親同士の会話を聞いて傷ついた

親の判断を押し付けるのではなく、わたしが考えたことを尊重してくれた！

何かにつけ兄弟と比べられることやめてほしかった

4 子どもの権利について

子どもの権利についてお話を聞きました。



こども課 平子さん

子どもの権利は子ども達が生まれながらに持っている権利です。大きく分けて4つあります。「生きる権利」(住む場所や食べ物があり、医療を受けられるなどして命が守られる)、「育つ権利」(勉強したり遊んだりして持って生まれた能力を十分に伸ばしながら成長できる)、「守られる権利」(紛争に巻き込まれず、難民になったら保護され、暴力や搾取、有害な労働から守られる)、「参加する権利」(自由に意見を表したり、団体をつくったりできる)の4つです。これらの権利を守るために世界中の国と地域が「子どもの権利条約」という約束事をしていて、大口町もこれを作ろうとしています。

昨年度、子どもたちを対象にアンケート調査をしました。悪口を言われたり仲間外れにされない、安心して生きる、差別されない、愛されて幸せな生活を送る…など 15 の権利の中で大事だと思う権利はどれかを聞きました。この 15 の権利の中で誰も選ばなかったものはありませんでした。大切だと思う権利は、人それぞれ違います。それだけいろんな考えがあります。このワークショップでも、大口町の子どもにやさしいまちづくりのために、是非いろいろなアイデアを聞かせただけければと思います！

5 ロールプレイ 「おもちゃのとりあい」

グループごとに、子ども同士のおもちゃの取り合いとその保護者達の対処の仕方についてのシナリオを配役を決めて演じ合ったあと、感じたことを出し合い、よりよいセリフを考えて発表会をしました。

その後、「気づいたこと」や「子どもにやさしいまちづくり」につながりそうなことをシートに記入し、班内で共有しました。

ふりかえりシートより ●～してはダメ、～しなければいけないということを子どもに強要せず、子どもの気持ちを考え聞くことが大切 ●ほんの些細なことでも、子どもにとってつらい、悲しい、怒りなどの心の変化になると思った ●子どもが自分の意見を言えるよう第三者も含めて考えサポートすることで、やさしさや子どもの権利を尊重する意識がまち全体に広がるといった ●子どもの権利は子どもたちのものという意識を大人が持つことが大切 ほか



6 チェックアウト



最後に全員で「輪」になってこのワークショップを通して感じたことを発表しました。



ひとこと
アンケート
より

大口町にこのような子どものことをきちんと考える方々がいることを実感できたことが良かったです／たくさんの方が大口町のことを考えて下さっているのだとうれしくなりました／自分の子ども時代を思い出して考えられた。いろんな人がいて楽しかったです／一人ひとり様々な目線から子どもについて考えており、その中でも「子どもの気持ちを考える」「寄り添う」ことが大切だと思いました／初心に戻って子育てしたいと思います。楽しい時間をありがとうございました／皆さんの前向きなエネルギー、吸収して帰りたいです ほか

問合せ **NPO 法人まちなっと大口**

TEL・FAX (0587) 22-6642

※月～土(祝日除く) 9:00～17:00 (12:00～13:00 除く)

✉ E-mail machinet@heart.ocn.ne.jp